

(実践報告)

## 遠隔による成人看護学実習Ⅱ（慢性期）を試みて

岩崎淳子<sup>1)</sup> 武藤英理<sup>1)</sup> 堀 美保<sup>1)</sup> 小園千草<sup>1)</sup> 北村真由美<sup>1)</sup>

### Ⅰ. はじめに

新型コロナウイルス（COVID-19）の感染が全世界に広がり、3月には全国の小中学校と高校などの一斉休校、4月7日には、緊急事態宣言が発令された。そして、当大学では、学生の登校自粛となり学内での対面での講義が制限される状況に陥ったことから、遠隔による講義となった。成人看護学講座では、5月11日から開始される4年生（当該学生数11名）の臨地実習をどうするかという決断に迫られた。様々な情報が交錯し、COVID-19の収束の気配もない不確かな状況の中、最終学年である4年生での臨地実習を延期することは困難である。実習病院では入院患者の安全を守るため面会制限が行われており、患者・学生の安全を考え病院での実習を中止せざるを得なくなった。代替方法としての遠隔による実習の準備・調整が慌ただしく始まった。学生、大学側が共に遠隔実習を行うための設備もまだ十分でない状態での取り組みとなった。実習評価に関しても、遠隔実習を行うグループと病院での臨床実習が終了したグループが混在することが問題となった。そこで、可能な限り、同程度の学習成果を保証することを念頭に置き、遠隔実習（自宅で実習を行う）の方法を検討した。今回は、COVID-19下における成人看護学実習での取り組みについて報告する。

### Ⅱ. 成人看護学実習Ⅱ（慢性期）の概要

#### 1. 目的・目標

成人看護学実習Ⅱ（慢性期）実習目的は、慢性の疾患・健康障がいを持つ人とその家族のニーズを理解し、その人自身が最適な健康の維持・増進とQOLの向上を目指すための看護を学ぶとしている。従来の目標を遠隔実習で達成するために、「健康障害を持つ対象者および特徴が理解できる。」「慢性期にある対象者を疾患と共存する生活者として理解できる。」を「疾患に関する解剖・病態・治療・検査・看護について説明できる。」とした。「慢性的な経過をたどる対象者とその家族に必要な支援の在り方・具体的な看護援助ができる。」を「事例患者の状態をアセスメントできる。」「看護の方向性を見出すことができる。」「退院後生活を見据え必要な看護を考え説明することができる。」と変更した。遠隔実習の全体スケジュールは表1に、事例展開実習の日程と内容については表2-1、2-2に示した通りである。

#### 2. 実習の内容と方法

従来、成人看護学実習では臨地に向かう前に学内実習でオリエンテーション（病院施設の概要、実習施設でのマナー、看護過程の展開についての復習、記録用紙の説明など）・事前学習の確認・技術確認・面接などを4～5名の学生に対して1名の担当教員を配し行っているが、遠隔実習ではMoodleを活用した。Moodle内に実習における講義指示書を提示し、看護過程に関しては、実習に必要な事例、記録用紙、疾患に関する講義資料、教員の連絡先などを該当学生各自に実習開始1週間前に送付した。送付には配送確認ができる方法を用い、学生には受領したことをMoodleの機能を活用し返信させることで双方向の連絡確認を行った。また、実習時間をリアルタイムに進めるために、実習への出席および終了に関してMoodleのシステムを活用した。また、オリエンテーションの内容に関しては事前に録画し、当日、オンデマンド配信した。

看護過程は、各自で事例を展開し、記録用紙を完成させていくことになったが、臨地実習と違ってタイム

---

1) 朝日大学保健医療学部看護学科

ラグが生じるが、記録内容の確認・修正は定期的に返送される記録の内容で確認した。各個人が疑問や不安と思うことにはその都度、各担当教員が対応したが、全体に及ぶものと判断された内容については Moodle にて該当学生に一斉配信した。さらに看護過程を展開していく上で、実際の場面を経験できないことに関しては、ナーシング・チャンネルを視聴し糖尿病患者の指導方法が具体的にイメージ出来るようにした。

事例（糖尿病の教育入院）では、患者のニーズが学生に伝わるように患者や家族の思いを多く記入しその時の患者の表情なども情報とした。事例（糖尿病の教育入院）展開の実習開始時に、担当教員へメールまたは電話にて行動計画の内容とその目的の報告し、実施にあたっての疑問点などを解決できるよう関わりを持った。臨地実習と遠隔実習で大きく違うと思われた看護実践に関しては、指導場面に特化して実践させた。実習計画書通りに事例による看護過程の展開を進めていった。指導内容の決定、指導書作成は従来通りであったが、実践に関しては、学生は家族や他者を対象に実践するところを携帯電話や iPad で撮影し、自分の行動を客観的に捉え、課題を抽出し、指導内容・方法を修正した。再度同じ方法で実践させ、学びと課題を明確にするという方法をとった。そして、臨地実習と大きく異なるカンファレンスの状況に関しては、Moodle の機能を活用し、グループ単位で定期的に行った。

表 1 成人看護実習全体スケジュール

月日		内 容	備 考
5月11日	月	午前：実習オリエンテーション 午後：実習前テスト	実習オリエンテーションを行うので視聴する送付された要項を熟読する
5月12日	火	事前学習内容についての講義資料を作成 *急性期実習は大腸がんについて *慢性期実習は糖尿病について	講義資料作成時は、説明文もつけること 様式は自由 講義資料のみパソコン使用可 <b>提出時は必ず表紙を付けること</b>
5月13日	水	事例課題を行う	
5月14日	木	事例による看護過程の展開 事例を読み解く 様式3：常在条件 様式4：病理的状态	*わからない用語については調べ、追加学習が必要な場合はフリー用紙に記入すること。
5月15日	金	様式5：アセスメントシートの記入 様式6：問題の抽出	実習前テスト・12日に作成した講義資料・事例課題・11日～15日分の行動計画用紙を大学へ郵送する
5月18日	月	18日～22日の内容に関しては別紙参照	14：00～カンファレンス（各実習グループで）
5月19日	火	18日～23日の内容に関しては別紙参照	
5月20日	水	18日～24日の内容に関しては別紙参照	
5月21日	木	18日～25日の内容に関しては別紙参照	
5月22日	金	18日～26日の内容に関しては別紙参照	18日～22日分の行動計画用紙を大学へ郵送する
5月25日	月	実習記録の見直し	14：00～カンファレンス（各実習グループで）
5月26日	火	個人発表の準備	20分間の発表を想定し準備する事
5月27日	水	個人発表の作成 A4で2枚程度	発表資料作成時は説明文もつけること 自宅で発表練習する事
5月28日	木	午前 様式8：実習の振り返りの記入 午後 14：00～カンファレンス（最終）	14：00～カンファレンス（各実習グループで）
5月29日	金	実習記録まとめ・自己評価 記録の提出	全ての記録用紙・事前学習ノート・個人発表の資料を大学へ郵送する

一日の流れ

時 間	行 動 内 容
9：00	実習開始 ・自己にて体調確認（体温測定・体調観察）・毎日、本日の目標・行動計画の確認
9：30～10：00	実習開始確認
12：00	休憩
13：00	実習再開
15：00～15：30	実習終了確認
15：30	実習終了 ・目標および本日の実習の振り返り

注意事項

- ・質問等ある場合は、携帯電話・メール・Moodle で対応いたします。  
（対応時間は実習時間内）

表2-1 事例展開実習の日程と内容

成人看護学実習 I (慢性期) 実習スケジュール

【実習目的】

慢性期の疾患・健康障害を持つ人とその家族のニーズを理解し、その人自身が最適な健康の維持・増進とQOL向上を目指すための看護を学ぶ。

【自宅実習日程】 2020年5月11日(月)～5月29日(金)

【実習時間】 9:00～15:30

日付	5/14(木)	5/15(金)	学修留意点
学修目標	情報収集/アセスメント	看護問題の抽出	
9:00	検温、出欠確認	検温、出欠確認	<p>・糖尿病の疾患理解、合併症、社会的背景、心理的側面、家族等含めて、慢性期の特徴をふまえて情報収集を行う。</p> <p>・慢性期疾患の1事例から、個別性をふまえて、アセスメントをすること。</p> <p>・退院後を見据え、QOLを維持するための適切な方法ができるように、学修をすすめていきましょう。</p> <p>【 ナーシングチャンネル 】で学修しましょう。                      &lt;key word &gt;  <u>糖尿病、肥満、メタボ</u>で検索し、学修しましょう。  <u>※患者指導していく上のポイントが多く、示されています。</u>                      看護計画の中に取り入れてみましょう。                      ▶ナーシングチャンネルを視聴し、学修した内容を所定のレポート記録する。                      ●所定のレポート用紙:5/29提出。</p> <p>・「指導書」は、看護計画に基づき、実施するために、どのようなシチュエーション(どんな場所・配置等)で実施するのか、図示で記録してもよい。具体的にシナリオを作成すること。                      ・実際に自宅で、シミュレーションする。                      *対象者は、家族又は相手はぬいぐるみなどでもよいので、スマホなど活用して動画撮影し、<u>自分のパフォーマンスを振り返り、評価します。</u>                      ※動画画像は要保存。▶実施記録として、見せて頂くことがあります。                      ・「記録用紙A」は、看護計画・指導書に基づいて実践した内容を記載して下さい。</p> <p>・必ず、看護計画の追記・修正をして下さい。看護記録の追加は、通常の実習と変わりありません。※修正は、青ペンで!</p> <p>◆Moodle カンファレンスを用いて、学生間で意見交換を行います。                      ※他者の意見をどう受け取り、自分はどう考えたのかを入力し、返信して下さい。                      ▶記録内容は、意見交換記録として保存されます。                      ※、5/18(月)、25(月)、5/28(木)                      14:00～各自、参加できるようスタンバイし、臨んで下さい。</p>
9:30	※9:30～10:00までに Moodleの実習開始ボタンをクリックする。	→	
10:00	行動計画発表	行動計画発表	
10:10	※担当教員に報告し、指導を受ける。	アセスメントから導いた看護問題の抽出	
10:20	※自ら、教員へ連絡。 ※メール又は、電話をする		
	事例患者情報の調べ学修 ※情報内容でわからないところを調べる。		
11:00			
12:00	休憩 1時間	休憩 1時間	
13:00	情報収集、アセスメント	看護問題抽出	
14:00	●電話での質問、指導は時間内に受け付ける。	●電話での質問、指導は時間内に受け付ける。	
15:00	15:00～15:30までに Moodleの実習終了ボタンをクリックする。	→	
15:30			
課題	・様式1 ・様式3 ・様式4 ・様式5 ・様式6	・様式1 ・様式3 ・様式4 ・様式5 ・様式6 ・様式7	・ナーシングチャンネルの学修内容は、レポート用紙に記録 ▶5/29提出

表 2-2 事例展開実習の日程と内容

【自宅実習日程】 2020年5月11日(月)～5月29日(金)

【実習時間】 9:00～15:30

日付	5/18(月)	5/19(火)	5/20(水)	5/21(木)	5/22(金)
9:00	※9:30～10:00までに Moodleの実習開始ボタンをクリックする。				
10:00	●問題抽出から看護計画を立案する。 ※現在の進捗状況について、担当教員に報告し、指導を受ける。  ※自ら、教員へ連絡。 ※メール又は、電話をする※事前に連絡を入れ、教員へ時間調整を図る。	<b>患者指導:30分</b>  ●1回目指導書を作成する。  ※指導時に使用するパンフレット又は、リーフレットを完成させる。  ※指導書には、具体的な行動・言動を記録する。 *看護計画に基づき、実施するためには、どのようなシチュエーションで実施するのか、具体的にシナリオを作成する。	●作成した指導案に基づき実践する。  自宅で、1回目のシミュレーションを実施。  *対象者は、家族又は相手はぬいぐるみなどでもよいので、スマホなど活用して動画撮影(スマホ等活用可)し、自分のパフォーマンスを振り返り、評価する。	●作成した指導案に基づき実践する。  2回目のシミュレーションを実施。  *対象者は、家族又は相手はぬいぐるみなどでもよいので、スマホなど活用して動画撮影(スマホ等活用可)し、自分のパフォーマンスを振り返り、評価する。	5/20,5/21実践内容をふまえて、  ●最終版の指導書を完成する。
11:00	休憩:1時間				
12:00					
13:00	●指導書(1回目)を作成する。  ※指導時に使用するパンフレット又はリーフレットを作成する。  *14時には開始できるよう、スタンバイ Moodleによる、学生間でのカンファレンス、意見交換する。	●指導書:1回目を完成する  ※指導時に使用するパンフレット又はリーフレットを作成する。  *14時には開始できるよう、スタンバイ Moodleによる、学生間でのカンファレンス、意見交換する。	●記録用紙A(1回目)を完成する。  ※記録用紙Aに沿って、患者指導について振り返る。  ※看護実践について、動画を振り返り、評価し、改善事項を明らかにする。	●記録用紙A(2回目)を完成する。  ※記録用紙Aに沿って、患者指導について振り返る。  ※看護実践について、動画を振り返り、評価し、改善事項を明らかにする。	●記録用紙B *看護計画を評価する
14:00					
15:00	15:00～15:30までに Moodleの実習終了ボタンをクリックする。				
15:30					
課題	・様式1 ・様式3 ・様式4 ・様式5 ・様式6 ・様式7 ・様式8	・様式1 ●1回目:指導書 ※パンフレット又はリーフレットを作成  *パンフレット又はリーフレットは、後日指導書と共に提出。	・様式1 ●記録用紙A(1回目)	・様式1 ●記録用紙A(2回目)	●最終版:指導書 ●記録用紙B  ・様式1の7日分を、 5/14,15 5/18,19,20,21,22 ●5/22 郵送!

### Ⅲ. 結果

#### 1. 看護過程の展開

臨地で行う実習より記録に関しては、患者が変化しない事や時間的余裕があることから、根拠を踏まえたアセスメントを行うことができていた。看護計画に関しては、遠隔で行っていることから記録用紙をタイムリーで見ることができず、電話とメールでのやり取りとなった為こちらの意図が伝わっているか不安であったが、提出した記録を確認すると指摘されたことは修正できていた。しかし、質問があった箇所しか指導ができて

いないのでその他の部分では実践できる計画には至っていなかった。患者への指導に関しては、カンファレンスで上がった意見を参考に個性のある指導案を作成できていた。意図としていた患者の生活背景やニーズを意識して事例展開を行うことができていた。患者や家族に対する指導においては、同居家族からの意見や動画を再生して振り返ることで、“重要な点が解りにくい”“文字が小さすぎてわかりにくい”などの指摘や“早口で説明していた”“目線を合わせていない”といった客観的に自己評価することができていた。

学生より“生活をふりかえってどこを改善する必要があるのかなど行動変容の必要性を伝えたりすることで、自己管理への意欲を高め、行動変容の動機づけができたと思う”“患者が現在において出来ていることや努力している点についても目を向けて評価を行ったり、出来ることから目標設定をすることで前向きに治療を継続出来るよう支援して行くのが大切である”“食事は患者さんにとってリフレッシュ方法であると考えられる為、患者さんの食事を否定するのではなく、こうしたら良くなると改善のポイントを伝える”という記述があった。慢性期の患者の特徴を理解し、病気と共に生活していくための看護について学ぶことができていた。

## 2. カンファレンス

学生がテーマを決め行ったが、自分の意見を入力するのに時間がかかる場面もあったが、学生間での意見交換ができていた。カンファレンスの内容から事例ではあるが患者の思いや生活背景を考慮した意見が多くみられた。普段意見を述べることができない学生も積極的に参加し、根拠を踏まえた意見交換ができていた。

## 3. 学生の反応

今回の実習に対して、“初めての遠隔による実習で不安もあったが、先生からのアドバイスや親身になって対応してくれたので安心して実習が行えた”“戸惑いもあったが目標に沿って努力することができた”“カンファレンスなどでグループメンバーの状況が確認できたことで安心できた”ことから初めての形式による実習への不安が大きかったことがうかがえる。“できることが限られてはいるが、非常に充実した実習となった”“病棟と変わらず対象者のニーズを意識して看護実践することができた”“慢性期の特徴である長期間の治療も考慮して退院後の生活も意識しながら指導が行えた”などの評価が得られた。

## IV. 考察

COVID-19により、臨地での実習ができないことになり代替実習として遠隔実習の準備を限られた時間の中で行った。臨地実習と同程度の学習成果が保証することができるのか思い悩みながらの実施であった。一番危惧していた、現場で感じる不安や葛藤など現場でしか経験できない点では限界を感じた。遠隔実習開始当初は、学生からも不安な声が上がっていた。試行錯誤しながらの実習ではあったが、学生の実習終了後の意見から、結果にあるように多くの学びを得ることができたと考えられる。今回、遠隔実習となった学生は、成人看護学実習Ⅰ（急性期）や他の領域実習を経験していたことが、遠隔実習が上手くいった一つの要因ではないかと感ぜられる。

看護実践を携帯電話やiPadで撮影することで客観的に自己評価することができたことや、チャットによるカンファレンスは学生の学びを深めることに繋がったことで、安心感を得られたのではないかと考える。遠隔実習では時間的余裕があること、直ぐに調べ学習ができる環境下にあるため疾患に対する学修が深まり、根拠をもって考える事に繋がったのではないかと考える。

改善点としては、Zoomを使用してリアルタイムでのカンファレンスや指導そして、実践が行えるよう検討していくことが必要である。病院と連携し臨床指導者を含めたカンファレンスを行うことで、より臨地実習に近い実習が行えるのではないかと考える。

## V. 参考文献

長谷川和子, 佐々木裕子, 佐藤ユキ子 (2020). 母性看護学・成人看護臨地実習の代替策. 看護展望, 45(13), 40-45.  
 中村貴美子, 井上佳代, 大西和子 (2020). 成人看護学(慢性期) オンライン実習の試み. 看護教育, 62(01), 50-55.  
 安酸史子 (2020). 臨地実習の代替え索を考えるうえで必要なこと. 看護展望, 45(13), 10-14.